

シニア・ストラテジスト  
山本 雅文

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

## 男に二言はない、中銀総裁に二言は？

### <ポイント>

- ◆昨日は、前日の米 FOMC 後のドル安の余韻が続き、ドル/円は一時 122.48 円へ下落した。米コア CPI の予想比下振れもドル安要因だった。
- ◆ユーロは、ギリシャ支援プログラムの延長報道を受けて一時上昇したが、ドイツ政府が否定したことから反落している。
- ◆本日は、日銀決定会合、カナダのコア CPI および小売売上高が予定されている。日銀決定会合では黒田総裁発言について質問攻めに合う可能性があり、ヘッドラインで上下するかもしれないが、10日の発言の根本的な修正は行われぬ可能性が高く、ドル/円は再度 122 円方向を窺う展開となりそうだ。
- ◆ユーロは、ギリシャ問題に関して週明け 22 日にユーロ圏緊急首脳会合が開催されることになったが、週末の突発的リスクへの警戒から、週末を控えてユーロ安となるリスクがある。

### 昨日までの世界：米 FOMC の余韻が続く

ドル/円は、前日のややタカ派度が後退した FOMC 後のドル安の余韻が続き、米中長期債利回りの続落と共に、欧州時間にかけて 123 円割れとなった。そして米コア CPI が前年比+1.7%と前月および市場予想を下回ったこともあって、発表にかけて一時 122.48 円の安値をつけた。もっとも、その後は米中長期債利回りが大きく反発したことから、一時 123 円乗せへ小反発して引けている。

ユーロ/ドルも米 FOMC の余韻を受けたドル安に支えられたほか、EU が IMF 抜きで現行の支援プログラムを今年末まで延長するとの独 Die Zeit 紙報道も好感され、1.13ドル台半ばから一時 1.1436ドルへ上昇した。もっとも、その後独政府が否定したことから、再度 1.13ドル台半ばへ反落している。

ユーロ/円は 140 円丁度を挟んだもみ合いの展開となり、欧州時間に 139.50 円へ軟化したが、その後ユーロ/ドルの上昇につれて 140.66 円へ反発、但し引けにかけては再度 140 円を割り込んで引けた。

豪ドル/米ドルも、特段の個別材料はない中で欧州時間の全般的な米ドル高基調を受けて 0.77ドル台前半から 0.7849ドルへ上昇した。

豪ドル/円は、豪ドル/米ドル上昇の影響が大きく、NY 時間にかけて一時 96.31 円へ上昇した。

NZドルは昨日早朝発表の NZ1Q GDP が前期比+0.2%と市場予想(+0.6%)を大きく下回り、利下げ期待が更に高まったことから、対円で 86 円丁度近辺から一時 84.72 円へ急落した。通常は豪ドルもつれ安となることが多いが、今回は豪ドルへの影響は限定的だった。

ポンドは、欧州時間の米ドル安を受けて対ドルで続伸、1.58 ドル台前半から一時 1.5930 ドルへ上昇した。この間、英 5 月コア小売売上高(除く燃料)は、前月比で+0.2%と予想外のプラスとなったが、前月分が下方修正されたことから必ずしも良好な内容ではなかった。対円では、ドル/円の下落の影響が強く、朝方に 195.84 円へ続伸していたが欧州時間に一時 194.35 円へ下落した。但し引けにかけては 195 円台を回復している。

きょうの高慢な偏見: 男に二言はない、中銀総裁に二言は？

[今週の見通しはこちら\(6月12日付 FX 戦略ウィークリー\)](#)

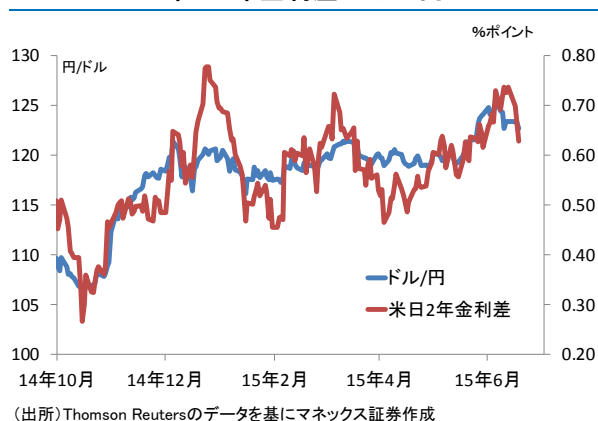
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は日銀決定会合が注目、政策変更は当面予定されていないが、6月10日の事実上の円安牽制発言について記者から質問攻めに合う可能性があり、ヘッドラインで上下しそう。既に16日の国会答弁でも示された通り、黒田総裁は10日の発言の根本的な修正を行わない可能性が高く、ドル/円は再び122円方向を窺う展開となりそう。米日2年債金利格差との関係をみると、黒田総裁発言後に金利差拡大にも拘らず円高となっていたが、FOMC 後は米日金利差がドル/円に追いついて縮小しており、「ファンダメンタルズに沿った」動きといえる。

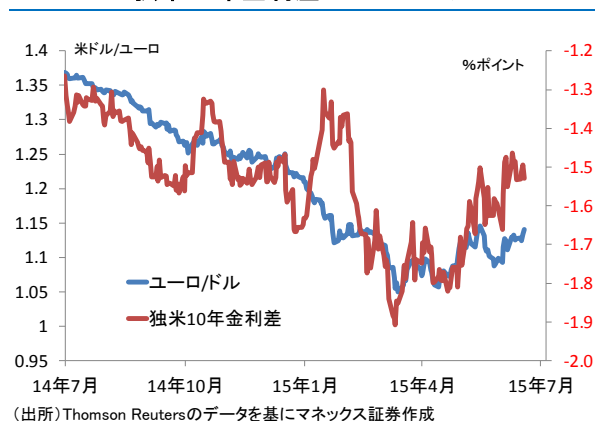
ユーロ/ドルは、ギリシャ支援問題についてユーログループ会合での決着持ち越しは概ね予想通りだったが、週末の突発的なイベントリスク(資本規制発表、デフォルト宣言など)への警戒感が高まると、週末を控えてユーロ売りとなる可能性がありそう。週明け22日にはユーロ圏の緊急首脳会合が開催される運びとなり、それを前に週末にもユーログループ会合が開催される可能性もあるが(ベルギー財務相発言報道)、ギリシャの銀行が週明け22日に営業できるか分からないとECB当局者が語ったとの報道もある。

豪ドル/米ドルは米 FOMC 後の米ドル安傾向の影響が強く堅調となっているが、引き続き米ドルの動向に左右されやすい状況となりそう。

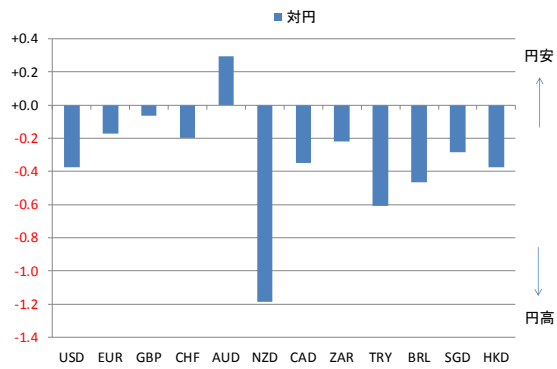
米日2年金利差とドル/円



独米10年金利差とユーロ/ドル

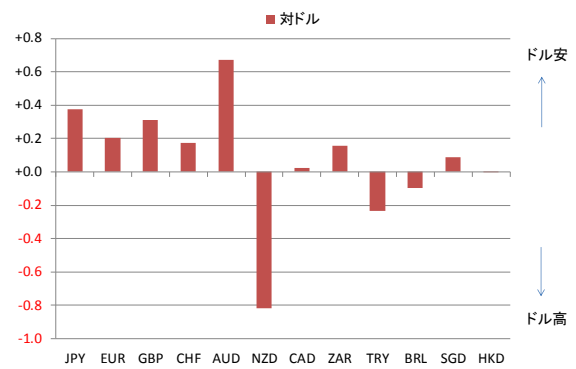


主要通貨の対円相場(前日比%)



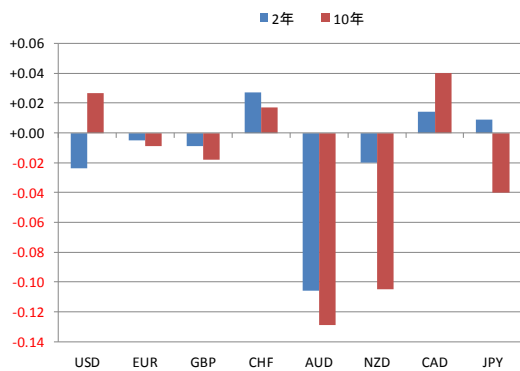
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



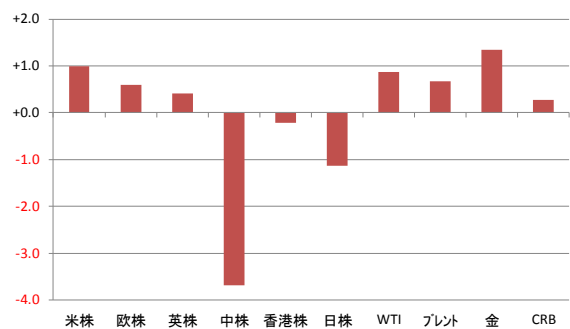
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会